

互いに認め合い、考えや思いを伝え合うことができる児童の育成
～「聴く」力を高める授業づくり～

越前市武生南小学校

1 互いに認め合う学級づくり

児童が自分の考えや思いを伝え合うことができるためには、お互いを認め合い、安心して聴いたり話したりできる温かい学級づくりが不可欠である。学級の中で、自分や友達、クラスの良いところを認めることが、児童の自己肯定感を高め、温かい学級づくりにつながっていくと考えられる。

そこで、児童のよさや頑張りを認めることができるように、各クラスで以下のような取り組みが行われている。

- ・すばらしメーターやなかよしポストなどを置き、児童のよい行いや頑張りを可視化できるようにする。
- ・帰りの会で、個人やクラスのよかったこと・頑張ったことを確認する。担任は、児童が気づかないようなことにも目を向け、行いをほめて認めていく。
- ・2週間に1回は、いいことみつけを行い、互いのよさや自分の成長を確認する。児童の頑張りを掲示物に表し、たくさんの人に見てもらおう。
- ・授業の振り返りで、同じグループのよかったことを書くようにし、お互いに協力する意識を高める。

それぞれ、各担任が児童の実態に応じ、工夫して取り組んでいる。また、グループエンカウンターを定期的に行い、自分を知る、友達を知る活動も継続して行っている。

これらの取り組みを通して、児童は、友達のよさを見つけたり、クラスで協力して頑張ったりする姿勢が身に付いてきた。また、友達のよさや感謝の気持ちを素直に伝えることができるようになってきた。学級の問題が起こった時には、児童が自分たちで考え解決しようとする姿も見られるようになってきた。しかし、本校の学校教育目標である「共生を目指した温かい人間関係作り」の達成には学級ごとの課題もあり、今後も継続した取り組みが必要であると考えられる。

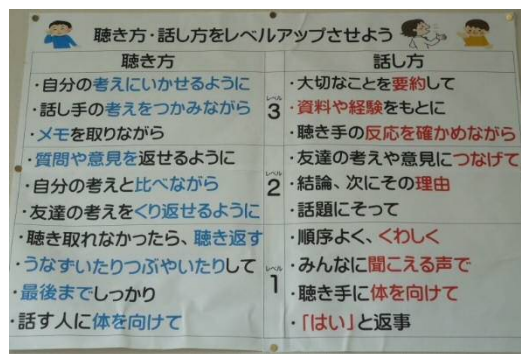


2 考えや思いを伝えるために

新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」に必要な力は、コミュニケーション能力と考えられる。コミュニケーションの基盤は、「聴く・話す」力であり、これは一生涯にわたり必要な資質・能力である。そこで、今年度は、「聴き方・話し方」の資質・能力を段階的に整理し共有することにした。複数のステップを、学年をまたいで整理するようにし、常に子どもの実態を見取りながら向上を図る手立てとなるようにした。また、児童にも意識させるように各教室に掲示するようにした。

| 聴き方 | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 話し方 |
|------|---------------------|----|----|----|----|----|----|------------------|
| レベル3 | 自分の考えにいかせるように聴く | | | | | * | * | 大切なことを要約して話す |
| | 話し手の考えをつかみながら聴く | | | | * | * | * | 資料や経験をもとに話す |
| | メモを取りながら聴く | | | | * | * | * | 聞き手の反応を確かめながら話す |
| レベル2 | 質問や意見を返せるように聴く | | | * | * | * | * | 友達や考えや意見につなげて話す |
| | 自分の考えと比べながら聴く | | | * | * | * | * | 結論を話し、次にその理由を話す |
| | 友達の考えを復唱できるように聴く | | | * | * | * | * | 話題に沿って話す |
| レベル1 | 聞き取れなかったことは、聞き返す | * | * | * | * | * | * | 順序よく、くわしく話す |
| | うなずいたりつづがやいたりしながら聴く | * | * | * | * | * | * | みんなに聞こえる声で話す |
| | 人の話を最後まで聴く | * | * | * | * | * | * | 聞き手の方を向いて話す |
| | 話す人の方を見て聴く | * | * | * | * | * | * | 指名されたら「はい」の返事をする |

※レベル1は低学年、レベル2までは中学年、レベル3までは高学年でつけた「聴く」「話す」資質・能力です。このシートは、教員の共通理解をはかるための、学年やクラスの実態に合わせて取り組む項目や言葉を考え、書き返りに取り入れてください。



「聴く」ことについては、まず、校内放送を静かに聴くことを徹底してきた。教員が聴き手である児童をより意識し、放送をかけるようにした。静かに口を閉じて聴くことができるように、日々の生活の中で意識を高めるようにした。また、授業を含めいろいろな場面で、「聴き方・話し方」の表を活用し、相手を見る・静かに聴くなど聴くポイントを示しながら、意識を高めるようにした。「聴く」「話す」は双方向の活動であるため、発表の後に、友達の意見を聴いての感想を話す、付け足しや質問をするなどの「話す」活動のためにしっかり「聴く」ということにも意識をもたせるようにした。例えば、朝のスピーチをグループで行い、一人目がスピーチをする、二人目が話したことをまとめて繰り返す、三人目と四人目は感想と質問を言うというやり方などである。学年に応じて、聴写を取り入れたり、「聴く」力をつける図形伝達ゲームをするなどした。「話す」ことについては、ペアやグループ、クラス全体などいろいろな形態で話す機会を多くもつようにし、「話す」ことへの抵抗感がなくなるように取り組んできた。これらの取り組みを通して、相手を見て聴く、静かに最後までしっかり聴く、うなづいて聴くなどの「聴く」姿勢や態度が向上し、児童の意識も高まってきたと感じている。また、ペアやグループで話す際には、スムーズに活動に取り組めることが増えてきたと感じる。今後も、今の取り組みを継続し、考えを深めるための「聴く」「話す」につなげられるようにしていきたい。



3 研究推進に向けて

今年度、学級づくりやグループエンカウンターについては、ミドルリーダーの校内研修を活用し、効果的な活動を紹介することで、学校全体として有効に活用することができた。また、研究部としても、Q-Uアンケートをもとにした学級づくりの研修や、JAXAの研修を現職教育に計画的に取り入れた。今後も、「聴き方」「話し方」の資質・能力に向け、各クラスで取り組んでいるものを学校全体で共有し、どのような手立てがより有効であるか研究を進めていきたい。